

特別支援教育実践マニュアル

<No.12>

～「学習支援室」活用のガイドライン～

特別支援教育実践マニュアル<No.12>をお届けします。

今号では「学習支援室」を特集します。

学習支援室を計画的に活用することで、個に応じた指導を効果的に展開することができるようになります。

特別な教育的ニーズのある児童生徒に対し、個に応じた指導の充実を図る上で、本ガイドラインをご利用ください。

1. 学習支援室とは

- (1) 支援形態
- (2) 対象となる児童生徒
- (3) 指導者
- (4) 学習支援室のレイアウト例
- (5) 個別指導を実施するためのフローチャート
- (6) 個別指導の実践例

2. 取り出しによる個別指導のポイント

- (1) クラスの雰囲気づくり
- (2) 担任の役割
- (3) 課題の選定
- (4) 保護者との共通理解 および周知

浦安市教育委員会
教育研究センター

1. 学習支援室とは

学習支援室とは、特別な教育的ニーズのある児童生徒が、個別または小集団で学習し、「わかる経験」を積み重ねることで、学級集団で学習する力（基礎学力、学習態度、及び対人関係を築く基本的な力）を身につける場、もしくはそれを可能にするよう情緒を調整（クールダウン等）する場です。

支援形態

- ・ 個別の学習
- ・ 少人数の習熟度別学習
- ・ 情緒の調整

対象となる児童生徒

- ・ 国語や算数（数学）、英語など、特定の教科でつまずきのある子
- ・ 学習全般に遅れのある子
- ・ 年齢相応のソーシャルスキルを獲得していない子

指導者

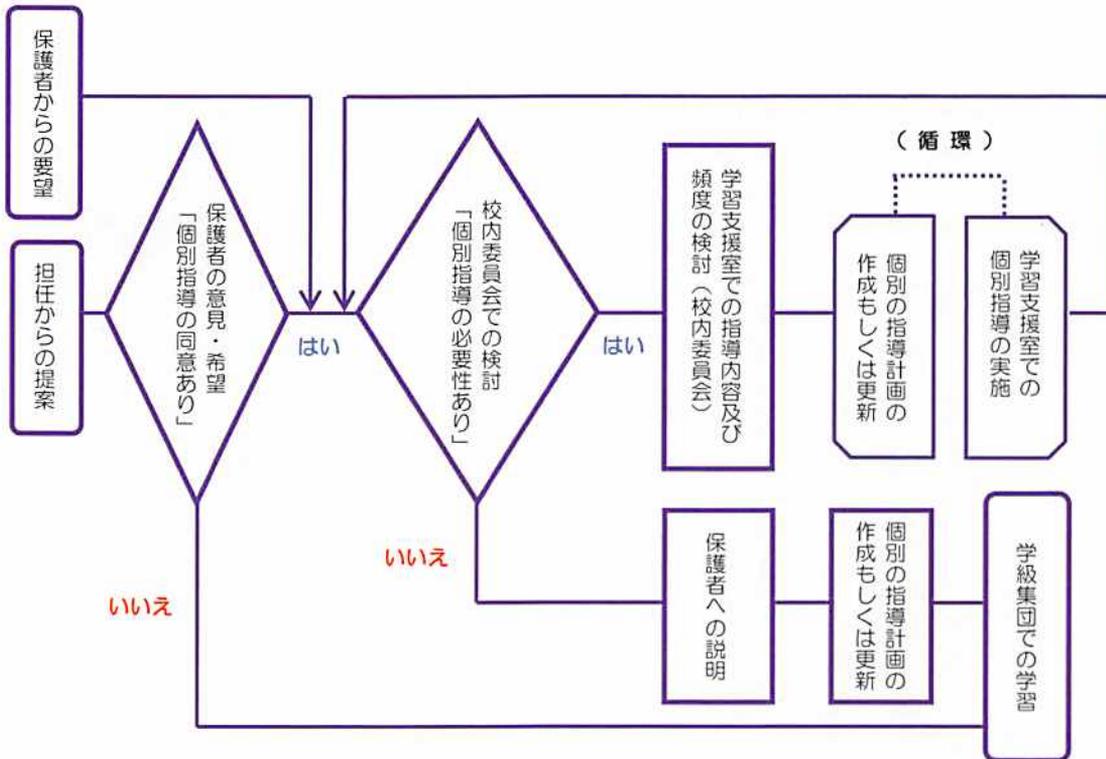
- ・ 担任、教科担任
- ・ 教務、教頭
- ・ 少人数教育推進教員、心身障がい児補助教員
- ・ スクールライフカウンセラーなど

学習支援室のレイアウト例

- ・ 落ち着いて学習に取り組めるよう、パーティションなどを使って教室環境を整えましょう。



個別指導を実施するためのフローチャート



* 「個別の指導計画」の作成（更新）に際しては、必ず保護者と連携を取りましょう。（マニュアル No. 9 参照）

* 個別指導に至らない場合でも、保護者との連絡は密に取りましょう。（マニュアル No. 4 参照）

個別指導の実践例

学年	状態像例	取り出し場面(頻度)と支援の内容	成果
小3	<ul style="list-style-type: none"> ディスレクシア傾向。 誤読や勝手読みが多い。書くことが苦手。全般的に、机上の学習では注意を持続させることが難しい。 国語以外の学習進度は、小学1～2年。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語の時間(週3回) 身近な題材で、漢字とカタカナの書字の練習 	<ul style="list-style-type: none"> クラスのみならず同じくらいの速さで板書を写せるようになった。 わからない問題でも、すぐには諦めなくなった。 学級集団で学習するための基礎学力がついた。
小5	<ul style="list-style-type: none"> 受け身型の自閉症。 学習進度は、全体的に小学2～3年。特に文章題の理解が困難。 自分から話すことはほとんどない。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語の時間(週2回) 読み取りを中心にプリント学習 	<ul style="list-style-type: none"> 小さな声しか出さなかった本音が、クラスメイトも実感するほどしっかりした声で、大人に対して話しかけるようになった。 学習に向けて集中力が続くようになった。
小6	<ul style="list-style-type: none"> 知的発達全般の遅れ。 数の概念は、小学3年水準。言葉の概念は小学1年水準。割り算はできるが、カタカナは不確か。 友達の動きを見て真似して参加する場面が多い。板書の写しは可能。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数の少人数学習の時間に、友達と2人で(週2回) 語彙を増やす、概念の整理、読み書きの練習 	<ul style="list-style-type: none"> 楽しく学校に通うようになった。 両親がそろって特別支援教育の必要性を受け止め、進路について話し合うようになった。
中1	<ul style="list-style-type: none"> ディスレクシア傾向。 カタカナは不確か。漢字は苦手。問題文を読んで解答することが苦手。 集中して学習に取り組むが、定期テストの結果に悩み、自信を失う。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語の時間(週1回) 放課後(週2回) 身近な題材でカタカナの書字、音読、漢字練習 	<ul style="list-style-type: none"> カタカナの読み書きが正確になり、小学3～4年の漢字が定着するようになった。 定期テストの結果も上がり、学校生活全般で意欲的になった。

2. 取り出しによる個別指導のポイント

授業中、クラスから取り出す形で個別指導を行う場合、様々な観点からの配慮が必要となります。



ポイント <その1> クラスの雰囲気づくり

どの子どももみんなそれぞれ目標があって、それに向かって努力することこそ大切だという理解が、クラス全体に浸透していることが大切です。

学習支援室の利用をきっかけに、そうした雰囲気をクラスに作りましょう。

ポイント <その2> 担任の役割

個別指導を直接実施するのが（教科）担任以外だとしても、学習内容を指示し評価するのは、あくまでも（教科）担任です。

授業の始めと終わりには、必ず（教科）担任が声をかけるようにしましょう。

ポイント <その3> 課題の選定

学習課題の設定は、（教科）担任が中心に行います。

その際、特別支援学級の担任や通級指導教室の担当者から助言を受けるなどして、課題を精選することが肝要です。



ポイント <その4> 保護者との共通理解 および周知

子どもはクラスの授業を抜けて指導を受けることになります。保護者との共通理解を図り、必ず「個別の指導計画」を立てましょう。

学校便りなどを利用して、各家庭に学習支援室の周知を図るとよいでしょう。

*子どもの知的能力の査定や個に応じた課題の設定に関し、まなびサポート事業の担当スタッフがご協力することも可能です。ご連絡ください。

まなびサポート事業担当

教育研究センター〈美浜北小学校内〉 381-7960・7961

まなびサポート相談室〈見明川中学校内〉 390-5204